



農業用施設紹介シリーズ

やまなし

月見里農業紀行

にし

ぶ

せき

西保堰

- 耕輝既刊行 月見里農業紀行
- 耕輝第3号 村山六ヶ村堰 (北杜市)
 - 耕輝第4号 徳島堰 (韮崎市・南アルプス市)
 - 耕輝第5号 笛吹畑かん
 - 耕輝第6号 上野原用水 (上野原市)
 - 耕輝第10号 ため池特集

月見里・やまなし

古くから月の景観の美しい地には「山梨」という地名が付けられました。この山梨は「月見里(やまなし)」とも書かれ地名や苗字にも使われています。

月見里農業紀行

今号6回目となるシリーズです。県内の様々な農業用施設(ため池・水路・農道等)の様子を記事にしています。

歴史の深い「西保堰」

西保堰の受益である現在の山梨市八幡地域は、地下水面が低いため井戸を掘るのに不利な地域でした。当初は農業用水を、地域にある「ため池」に貯留するなど工夫をしていましたが、ある日、日照りが続いた際に水が枯れてしまい、地域住民は日照りの影響のない野背坂の北側を流れる鼓川から水を引くことを考えました。地域の要望を受けた甲斐の国主である柳沢吉里は享保2年(1717年)に農業用水を八幡・岩手地域に引き込むための工事を行いました。山腹に沿って堰を掘り、野背坂の頂上まで水を引いたため完成までに4年かかりました。野背坂の頂上に流れてきた水は石柵で八幡に4分の3、岩手に4分の1に分けられました。しかし、石柵の先には流れを障害する石が多く存在し、当時は石を砕くことができなかったため、石の隙間を伝った水が堰に染み出ることを願うばかりでした。完成より1週間後に水が出てきた時の喜びは大きなものとなりました。地域の悲願であった堰は難工事の末に完成し多くの水田を潤しました。現在でも完成祝いに作られた石灯籠は地元の八幡神社に奉納されています。

明治時代に入ると堰の老朽化や崩壊が見受けられたため、明治35年(1902年)に県による測量で新たなルートを決め、明治37年(1904年)に旧ルートと並行して建設されました。その際に坑路の入り口には当時の東山梨郡長である秀島醇三により「潤人間」「補化工」の額がかかげられています。平成8年(1996年)からは「ため池等整備事業」を取り入れ総延長約5,000mのうちの約2,000mの改修を行い、平成21年(2009年)に新たな堰に生まれ変わりました。

渇水に悩まされてきた地域を救うために誕生した西保堰には地域の思いが詰まっています。農業用施設としてだけでなく地域の歴史を伝える文化財施設としての側面を持っているのが西保堰になります。

伝え継がれる歴史



「山梨市ボランティア会 大型子ども紙芝居 さくら座」では、「ありがとう西保せぎ」という題で巻取り式の紙芝居を地域の小学校等に披露しています。この紙芝居では西保堰の計画から完成までの物語になっています。施工中の苦難や水の大切さ等、当時の地域の思いが伝わってきます。



取水口

水路



補化工



潤人間



「潤人間」は農地と人間(あるいは人の世)を潤すように、「補化工」は産業等の当時の進んだ文化を進めるようにと願いが込められています。

野背坂

岩手地域

分水桝



流れてきた水がこの桝で分けられ岩手地域へ流れていきます。

八幡地域



西保堰

フルーツライン

鼓川